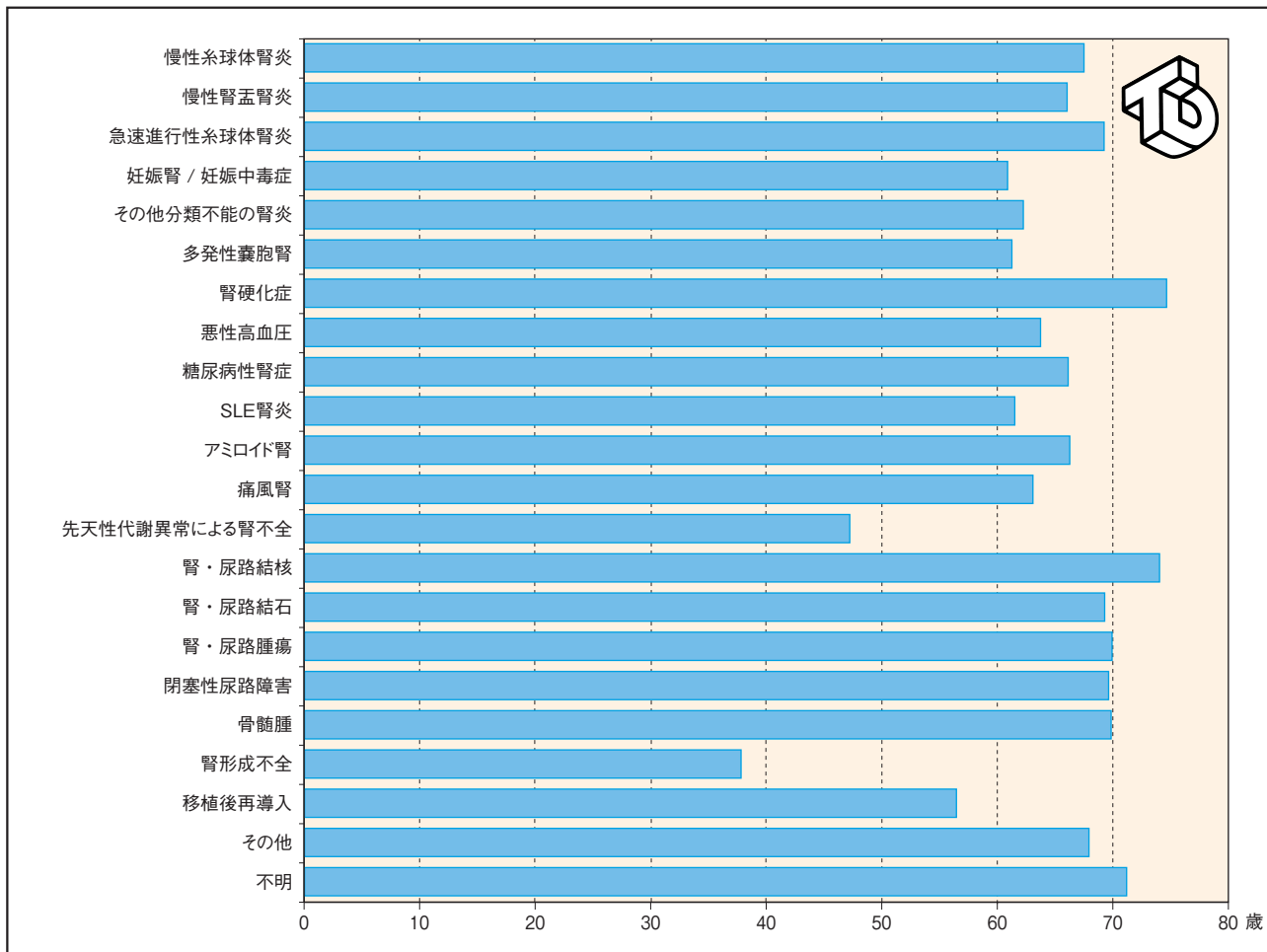


3) 導入患者の現状

(2) 導入患者の原疾患と平均年齢 (図表10)



原疾患	患者数 (%)	平均年齢	標準偏差
慢性糸球体腎炎	7,946 (21.2)	67.46	14.42
慢性腎盂腎炎	306 (0.8)	66.00	15.31
急速進行性糸球体腎炎	446 (1.2)	69.20	13.85
妊娠腎/妊娠中毒症	47 (0.1)	60.85	12.54
その他分類不能の腎炎	150 (0.4)	62.21	18.51
多発性嚢胞腎	902 (2.4)	61.22	13.39
腎硬化症	4,355 (11.6)	74.61	10.97
悪性高血圧	328 (0.9)	63.70	17.15
糖尿病性腎症	16,271 (43.5)	66.09	11.71
SLE腎炎	286 (0.8)	61.47	15.39
アミロイド腎	124 (0.3)	66.23	11.02
痛風腎	84 (0.2)	63.04	12.56
先天性代謝異常による腎不全	31 (0.1)	47.19	24.57

原疾患	患者数 (%)	平均年齢	標準偏差
腎・尿路結核	13 (0.0)	74.00	10.84
腎・尿路結石	68 (0.2)	69.25	11.41
腎・尿路腫瘍	188 (0.5)	69.89	10.71
閉塞性尿路障害	85 (0.2)	69.59	15.60
骨髄腫	140 (0.4)	69.81	10.80
腎形成不全	63 (0.2)	37.78	28.47
移植後再導入	202 (0.5)	56.42	14.97
その他	1,372 (3.7)	67.89	14.60
不明	4,004 (10.7)	71.15	13.18
合計	37,411 (100.0)	67.75	13.29
記載なし	144	68.02	11.13
総計	37,555	67.75	13.28

患者調査による集計

数値右のカッコ内は列方向の合計に対する%です。

解説

透析に導入された患者の原疾患の第一位は糖尿病性腎症で43.5%（前年の割合より1.0%減少）、第二位が慢性糸球体腎炎で21.2%（0.7%減少）、腎硬化症が11.6%（0.9%増加）、不明が10.7%（増減なし）であった。糖尿病性腎症は2008年末の調査で初めて減少し、2009年は1.2%増加したが、今年は再度減少した。腎硬化症の割合は年々増加し、慢性糸球体腎炎は減少している。

導入時の平均年齢は、糖尿病性腎症で66.1歳（前年より0.4歳増加）、慢性糸球体腎炎で67.5歳（0.6歳増加）、腎硬化症の平均年齢は74.6歳（0.5歳増加）であり、全体で0.5歳増加したことと一致し、高齢化が明らかであった。比較的若年で導入されているのは、腎形成不全、先天性代謝異常による腎不全などの先天異常によるものであった。移植後再導入例は56.4歳であり、これも前年より1.7歳増加した。